

博多湾における環境 DNA を用いた魚類モニタリング

環境科学課 有本圭佑・三戸谷勇樹・大平良一

第 59 回日本水環境学会年会

環境 DNA メタバーコーディング法による調査を博多湾のアマモ場、常時監視地点で実施した。能古島及び志賀島のアマモ場を含む周辺海域の魚類相を明らかにするため、有効な調査手法の検討を行った。

採水方法を比較したところ反復採水はプーリング採水に比べ検出種数が多く、魚類相を明らかにするのに有効であると考えられた。

また、常時監視地点において令和 6 年 6 月、8 月、11 月に調査を実施したところ種数は 8 月が最も多く、アマモ場周辺で検出される魚種と比較すると一部異なる傾向がみられた。